

※一部非公開

令和2年度入学試験問題（推薦入試Ⅰ）

小論文

農学部 亜熱帯生物資源科学科（健康栄養科学コース）

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、90分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

次の文章を読んで、以下の各問に答えなさい。

非公開

(1) リンダ・グラットン／アンドリュー・スコット，ライフ・シフト 100 年時代の人生

戦略, 東洋経済新報社, 2016年, 1~4ページ, 抜粋・一部改変)

問1 下線部について, これからの栄養管理は, 一人ひとりに対して進められている「個別化医療」の中での「個別化栄養管理^{*1}」が必要となってくると考えられている²⁾。今後, 大きく変わることが求められる個人(または患者)に対して, 食の専門家であるあなたはどの様なサポートができるか。あなたの考えを100字以上200字以内で述べなさい。

問2 長寿化が進む中, 栄養や食事が医療・介護の施設のみならず, 生活の場においても重要性が高まり, 栄養士の地域社会への貢献度が増している²⁾。人生100年時代の到来を控え, 新しい現実を突きつけられている今, 地域における栄養士の役割として, 長寿化社会をどの様に支えていくのか。下記の語群から6つ以上使用し, 800字以上1,000字以内であなたの考えを述べなさい。

【語群】

地域包括ケアシステム^{*2}, 地域住民, 多職種連携, 在宅医療, 栄養管理, 生活習慣病患者の高齢化, 栄養指導, 低栄養, 食事療法, QOL^{*3}の向上, 栄養ケア・ステーション^{*4}, 健康の維持増進

[注釈]

*1 個別化栄養管理: この場合, 患者のそばに寄り添って栄養を考え, 食事を提供すること。

*2 地域包括ケアシステム³⁾: 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に, 重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう, 住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される体制のこと。

*3 QOL⁴⁾(Quality of life): 生活の質、生命の質。個人が生きるうえで感じる日常生活の充実度や満足度。

*4 栄養ケア・ステーション⁵⁾: 栄養ケアを提供する地域密着型の拠点。地域住民, 自治体, 健康保険組合, 民間企業, 医療機関, 薬局などを対象に, 日々の栄養相談, 特定保健指導, セミナー・研修会講師, 調理教室の開催など食に関する幅広いサービスを展開して

いる。

(²) 特集 人生100年時代の到来を控え、地域における管理栄養士・栄養士の役割, 日本栄養士会雑誌, 2019年, Vol.62(4), 6-13, 抜粋・一部改変)

(³) 厚生労働省, 地域包括ケアシステム

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/cihiiki-houkatsu/, 2019/9/11)

(⁴) 医療・ケア用語集 アルメディア WEB

<https://www.almediaweb.jp/glossary/0230.html>, 2019/9/11)

(⁵) 公益社団法人 日本栄養士会, 栄養ケア・ステーション

<https://www.dietitian.or.jp/about/concept/care/>, 2019/9/11)

令和2年度入学試験問題（推薦入試Ⅰ）

小論文

農学部 亜熱帯生物資源科学科（健康栄養科学コース）

出題の意図

この小論文の出題の意図は、本コースのアドミッションポリシーである「栄養学・食育を通じて地域社会の健康の保持増進に貢献したい人」を踏まえ、まず、近年の食や栄養に関する情報や現状についてどの程度知識があるのかを確認する。また、将来は地域住民の健康を支える役割を担う食の専門家として「人生100年時代」というテーマから、社会の抱える現実的な課題解決に向け、どの様な対応ができるのか、食や栄養に関する基本的な考え方や方向性について論述できるかを問うものである。